

2011. 3. 25

## IRDR 委員会の方針について：東北関東大震災と災害危険マネジメント

SCJ IRDR 委員 石井弓夫

兼 WFE0 CDRM 委員長

## 基本的コンセプト

まず、国民の生命を守るべき科学・技術者として、それに失敗したことの反省から始めなければならぬ。その上に立って、再度の失敗をしないとの決意で当たるべきである。

今回の大災害は自然現象である巨大地震・津波を引き金とした、社会現象であるとの観点で取り組む。複雑化した現代社会における自然災害と原発災害の同時生起は特に重要で「複合災害」の観点が欠かせない。したがって直接被害だけでなく間接被害（風評も）も対象とする。

福島原発災害は INES レベル5でチェルノブイリ事故と同じだが、大都市（東京、仙台、水戸、福島）が近く、6基もの事故となると史上初で、レベル7にまでいくのではないか。これには国際的にも重大な関心がある。

災害危険マネジメントは災害に関連するすべての事項を取り上げ、緊急復旧だけでなく社会活動、経済活動が正常に行われるようになる本格復興と再度災害の発生を防ぐ提案を行うべきである。

災害危険マネジメントには「想定外」と言う事はない。想定していなかった事象（自然、人為）が起こったときにそれをマネージするという観点で取り組むべきである。

## I 状況把握 これは情報収集中心

1. 自然現象の把握（震動、津波、流砂。対象地域は広く取る。想定された状況との違い）
2. 直接被害の状況
3. 間接被害（対象地域は広く）
4. 緊急対策の状況
5. 原発関連の被害状況（一般被害と区別）

## II 被害とその原因の分析

1. 直接被害の原因
2. 間接被害の原因
3. 原発関連の被害（特に間接被害を重視）

## III 防災対策の成果の分析 少ないとはいえ成果もあったはず

1. 災害教育・避難訓練
2. 原子炉炉心の緊急停止（刈羽原発の成功と失敗との比較）

## IV 緊急防災、緊急復旧対策、復興対策

1. インフラとライフライン
2. がれき処理
3. 仮設住宅。個人住宅への融資
4. 企業への融資（従業員の給料、工場建設、事業再開）
5. 農業・漁業、商店への融資

## V 防災対策の提案 被害と成果の分析の上に再度災害を防ぐ防災対策を提案。

1. 国土計画：エネルギー、産業、土地利用
2. 災害発生時の緊急対策 「想定外」も
3. ハードな防災対策
3. ソフトな防災対策
4. 原発の防災対策

・成果： シェルター。家屋の立地

・今後の対策： 予期される東南海、南海地震。設計（想定）外力と超過外力への対応。

以上